

小学校については、学校生活支援員をさらに3名増員します。さらに、児童数が増加している乙川東小学校の増築を行います。中学校では、乙川中学校の建て替えに向けた実施設計を行い、令和4年度中の供用開始を目指します。

教育・子育て分野については、コミュニティ・スクールに代表されるように地域と一緒に育てる風土や、公民両面における環境の優位性など、本市の大きな魅力を活かし、未来の担い手となる子どもたちが伸び伸びと育つ環境整備を進めていきます。

観光振興

本市の発展の礎となりました醸造文化や酢づくりの歴史を観光客にきちんと伝えていくため、食の観光素材として「すし」にスポットライトを当て、尾州早すしのPRをはじめ、市内のすし店を巡ってもらう施策の拡大や、新たに半田運河周辺において「すし」を楽しむイベントを開催します。

新たな誘客促進として、津市とセントレアを結ぶ高速船を運行している津エアポートラインと連携するなど、民間事業者とタイアップし、他県からの集客に取り組み、訪問客の増加につなげます。

また、半田運河の景観をさらに楽しんでいただくとともに、回遊性の向上を図るため、令和4年4月の供用開始を目指し、新川との合流地点に人道橋

の整備を進めます。

観光振興については、半田運河や半田赤レンガ建物など、本市ならではの歴史と文化を市内外へアピールし、誘客を図るだけでなく、市民にもその価値をさらに知っていただき、まちへの愛着につなげます。

その他の重要施策

◇市民の移動手段として、平成30年10月から運行を開始しています地区路線バス「ごんくる」の運用実績を踏まえ、亀崎・有脇線の路線改善を行います。

また、コミュニティバスの利用環境の向上を図るため、交通事情により遅れが生じやすいバスの現在位置がわかるバスロケーション・システムを4月から運用開始することに加え、目的地点での経路検索をスマートフォンなどで行うことができるようにします。

さらに、高齢ドライバーによる交通事故防止は喫緊の課題であり、運転免許自主返納の促進や自動ブレーキなどを備えた安全サポート車の普及促進などの取組を行うなか、安全運転支援装置の設置を促す補助金制度の創設に直ちに取り組みます。

◇新半田病院については、高度医療と良好な療養環境の提供、防災上も安心できる建物とするため、令和7年春の開院を目指して計画的に事業を進めているところです。令和2年度は、基本構想に基づく基本設計を行い、パブリックコメントにて広く市民の皆さま

からご意見を頂戴する予定です。

なお、常滑市民病院との診療統合及び経営統合に向け、引き続き協議し、実現に向けた具体的な方策を決定していきます。

また、現在の半田病院においては、手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)を知多半島医療圏の病院で初めて導入します。これにより、特に前立腺がんの全摘出手術において、手術に係る患者の負担軽減及び入院期間の短縮が期待できます。

◇快適な住環境の整備として、乙川中部土地区画整理事業に関しては、令和5年度の環状線の全面供用開始を目指し、跨線橋整備に本格的に着手します。

また、JＲ半田駅周辺では、中心市街地としてのまちの一体化や活性化を促進し、快適で利便性が高く、歴史・文化を活かした「半田市の玄関口」にふさわしい魅力あるまちづくりを目指します。JＲ武豊線連続立体交差化関連事業では、半田駅の仮駅舎建設や国道247号付近の仮線建設を皮切りに、令和3年度からの高架本体工事の準備を進めるとともに、鉄道沿線を中心とした建物移転に着手します。

◇公園の整備について、4月から供用開始の任坊山公園の宮池エリアは、池の周囲に自然を活かした散策路を整備し、水辺の植物や生物に親しみながらくつろいだり、ジョギングやウォーキングなどの健康づくりをしていただける上質な都市空間とすることができま

した。近隣の自治区をはじめ、小中学校の先生やPTA、地元商店街、自然観察会など、公園整備に参画いただいた多くの方の想いがつまった公園です。ぜひ多くの方にご利用いただき、楽しんでいただきたいと思います。

さらに、柘町の柘丘公園、有楽町の(仮称)城ノ上公園のほか、緑ヶ丘の南廻間池周辺の公園整備を進めます。

◇結びに、令和3年度からの新しいまちづくりの指針となる第7次総合計画の策定にあたり、多くの市民の皆さまの貴重なご意見やまちづくりへの想いをうかがうことができました。いただいたご意見や各種の統計データ等を基に、現在、策定作業を進めているところです。

策定作業を進めるなか、予測困難で不確実なこれからの時代を乗り切っていくために重要だと感じるのは、「長所を伸ばす」ということです。人も自治体も同じで、欠点や弱点を解消していくだけでは、成長することは困難だと思えます。

私ども市の職員と市民の皆さまが、本市ならではのまちの強みを共通認識し、長所を活かし伸ばしていくことが、ともにチャレンジを続けていくことが、閉塞感に覆われた時代を切り開き、すべての市民が自分らしく活躍できる、真に魅力的なまちづくりにつながる唯一の道だと考えます。市民の皆さまのこれまで以上の市政へのご理解とご協力をお願い申し上げます。